

台湾高校生日本留学事業 第7期留学中間報告

当協会の台湾高校生日本留学事業では、台湾の高校生が日本の高校に約11ヶ月間留学し、日本の高校生と同じ環境で生活を送りながら、日本の社会・文化・歴史等を学ぶ機会を提供しています。留学した台湾人高校生が将来知日派人材となり、日台間の架け橋として日台関係の更なる発展に寄与すること、及び受入校の日本人高校生等の台湾に対する理解を増進することを目的としています。2023年度派遣の第7期生は、2023年8月より留学を開始し、半年が経ちました。今回は、日本の高校生活の中で疑問に感じたこととそれに対する自分の考えについて、留学生3名の報告を紹介いたします。

日本の高校の教育姿勢

東京都立成瀬高等学校 高嘉彤

日本に来て半年が経ちました。自分自身の成長がはっきりとわかります。過去よりも行動や考え方においてより多くのことを考慮できるようになり、衝動的な決定をすることもありません。

学校で理解できないことは、試験の方法が台湾と本当に大きく異なることです。台湾では選択式ですが、文脈を理解し、論理的推論をすることが重要です。しかし、日本の授業や試験は暗記を重視し、自分で考えたり推論したりする問題が少ないです。このような「詰め込み」が本当に学生が知識を吸収するのに役立つのかどうかはわかりませんが、最近、日本の学校のこの試験の方法を理解しました。

台湾は思考を重視していますが、実際に選択式のような試験方法は、勉強していない人でも運によっては得点できることがあります。日本の試験形式は定期考査で、学生が試験前に真剣に勉強しているかどうかを重視しているように感じます。実用性よりも態度を重視しています。両方にはそれぞれメリットとデメリットがありますが、個人的には台湾の試験方法の方が好きです。

もう一つ学業に関連する疑問を抱いていました。どうして日本の試験の問題や内容は台湾と比

べるとずっと簡単なのに、日本のトップ大学は世界的に有名な学校なののでしょうか？

考えてみた結果は、前述のように、日本は非常に「態度」を重視する国であり、幼い頃から責任感を育むことが重要視されているからというものです。また、彼らは自分の興味を育むために時間を多く持ち、将来の職業を探求する機会があります。それに対して、台湾は今も学歴至上主義であり、多くの人が自分の成績に基づいて職業や専門を選択しますが、実際には自分が選んだものが実は好きではないことに気づくことがよくあります。しかし、私は日本の友人と将来の夢の話をするとき、彼らは自分の目標を達成するために必要な努力や自分が選んだことを本当に楽しんでいるかどうかを考えたり、自分の趣味から選ぶことが多いと気付きました。さらに、日本のトップ大学が世界ランキングに入った理由は、これらの大学の研究活動や学術活動と関連しているかもしれません。これらの大学には優れた教員や研究者が多く在籍し、さまざまな分野での研究に取り組んでいます。なので、学生たちはもし趣味がなかったら、すぐ飽きてしまいます。だから、将来の学術や研究への情熱と才能が必要です。これが、これ

らの大学が世界的に高い評価を受けている理由の一つかもしれません。私は、この考え方は台湾の

高校生が学ぶべきものだと思います。



剣道部で初段をとりました

留学半年間で感じたこと

松戸市松戸高等学校 蘇宣帆

日本の高校で二学期を過ごし、以下四つのことが勉強になりました。

第一に、アジアでよく見られる現象の一つである英語に対する恐怖心です。このため、英語のテストは得意なのに日常会話ができない人が多いです。初回の英語授業で会話を続けられなかった後、クラスメイトが私に「発音かっこよすぎてペアとして緊張感がある。」と言ったことに非常に困惑しました。台湾ではあまり褒められなかった英語は日本で高い評価を得ています。その後ずっと考えて、日本では発音を気に配り、話せる人は凄いのだと思います。台湾の英語教育は文法授業の割合が多く、台湾ではライティングができる人に憧れています。しかし、私にとって、言語は自分の考えをちゃんと伝えるためのツールです。異なる文法や変な発音であっても、言いたいことが正しく伝われば、正式でない場合でも気にする必要はないと思います。

第二に、日本は友人との距離感が台湾よりも遠いです。学校でいつも友人の名前を呼びあっていた私が、一ヶ月ほど経ってから、日本の高校生は

名前を呼ばないことを知りました。友人に尋ねたところ、「小学校の頃はお互いに名前を呼びあっていましたが、中学校から男子には名字で呼ぶようになりました。それで高校では皆を名字で呼びます。それが社会の仕組みです。」という答えを得ました。また、歩く時に友人が手をつなぐことや写真を撮るときにハートを使うことが恥ずかしいを感じることも、台湾とは異なります。大人になるにつれて、距離感が益々広がっていく傾向があります。

第三に、地震の訓練への真剣な態度を尊敬します。台湾と日本はともに複数のプレートの上に位置しています。一年に少なくとも一度の地震の訓練を行っています。台湾では、毎年の地震の訓練が生徒にとって「時間の無駄使い」と思われています。921地震を経験したことのない台湾人は、頻繁な地震という自然災害に対する恐怖心を失っています。それに対して、日本の高校生は台風や地震の防災対策をまじめに取り組んでいます。毎年の防災講習を真剣に受ける人が台湾より何倍も多いです。この態度は、台湾の方も見習ってほし

いです。

最後に、高校生が未来に対して健全な態度を持っています。この点において、日本は台湾の高校生の手本だと思います。日本の教育は特に文系や理系を重視していません。専門学校、大学への進学は、どちらでも尊重されます。人生は勉強だけではなく、自分の興味や才能を見つけることが大切です。それが台湾と全く異なるので、最初は理解できませんでした。多くの留学生や、夢を叶えたいため一人で日本にきた外国人たちと話した後、大体わかりました。台湾の人々は、成績が一番高い学部に進学し、一番給料が高い職業に就き、

一番優秀な人生を過ごすことが最高の人生だと考えています。台湾の生徒たちは、学生時代から、一位を追い求めることが唯一の目標です。しかし人生はテストではありません。正解や一位の人生など存在しません。そのため、自分ができることや一番楽しみにしていることが、成績よりも重要です。学生時代は夢や興味を見つけたり、良い思い出を作ったり、好きなことに全力を尽くす時間です。

以上が、この半年を過ごして感じたことです。かなり成長できたかもしれませんが、今後も頑張ります！



体育祭

コスモス—集団のチカラ

東京都立白鷗高等学校 葉菘安

集団の力はどのくらいの影響があるのでしょうか。実際に日本の高校生たちと一緒に授業をしたり、イベントを準備したり、生活したりしていて、この質問が気になって考えました。

初めて日本の高校に通っていて、日本の高校生たちはまるで複製体みたいで、同じ制服と髪色、授業中も静かにメモしながら先生の話を聞いています。多くの方は自分は他人と違うと見られたくないから、分からなくなったとしても授業中に質問しません。しかし、それは本当にいいのか？人は多様性がある動物なのに、そのままにすると個人的な考えなどはどんどんなくなるかもしれませ

ん。

一方で、台湾の高校の特徴を一言で言えば「自由」と言えますが、学生がよく自己中心的に見えます。私の台湾の高校では、自分が楽をするために校則を破る人が結構いました。しかも、先生たちも適切な時に指導してあげませんでした。そのため、よくない行為が増えていて、学生も良いものと悪いものを判断できなくて、学校の雰囲気が悪くなってしまいました。

今の学校はすごくいい雰囲気ですが、それでも誰も間違えることがないとは限りません。クラスには集団行動を無視する人がやはりいるし、でも良

い指導者や多くの人々が良い方向に向かっているから、みんなはその「悪い人」に影響されていません。その結果、将来の世代にいい習慣と文化を引き継いで、礼儀を正しくマナーを守って、協調性が高く、真面目で謙虚で、周りに迷惑をかけないと言う日本社会の文化が作られました。

留学に来る前は、留学生だから特別な存在であり、他の生徒と異なっても大丈夫だと思っていました。11ヶ月しかない私にはテストや宿題、レポートなど、特に高い成果が求められるわけではないから、最初の頃は気にしていませんでした。皆と過ごす時間が長くなるにつれて、いつの間にか「皆は頑張っているから私も頑張らないと」考え始めました。しかし、受験生のみんなの行動は少数派の私も同調圧力にさらされました。学校は3時40分で終わりだけど、文化祭の準備をし、合唱の練習など6時まで練習していて、そしてまた学校で7時まで勉強することがすごくプレッシャーになりました。自分の考えが周りとは違う時にも空気を読まずにはっきりと言うことが重要だと思うようになりました。

日本の学校生活は、台湾とは違うけど、それで

もたくさん学べることがあります。集団からの拘束力は価値があるといいながら、それぞれの個性や創造力も失うかもしれません。だから、両方の良い点を取り入れたら、素敵な教育環境が築かれると信じています。



沖縄への修学旅行